

2015年6月2日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 清水谷 卓

インド国グルガオン・バワル都市鉄道建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2015年5月11日(月) 13:56～16:38
- ・場所：JICA 本部(111会議室)
- ・ワーキンググループ委員：柴田委員、清水谷委員、田辺委員、谷本委員、松下委員
- ・議題：インド国グルガオン・バワル都市鉄道建設事業に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配布資料：インド国グルガオン・バワル都市鉄道建設事業に係るスコーピング案事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第59回委員会)

- ・日時：2015年6月1日(月) 14:32～17:35
- ・場所：JICA 本部(会議室：1階 113会議室)

上記の会合に加え、メール審議により助言を確定した。

助言

全体事項

1. インド国の耐震設計基準が十分なものが確認し DFR に記載すること。

代替案の検討

2. 交通モードに関して、需要予測に基づく交通モードの再検討が行われる場合は、その結果を DFR に記載すること。
3. 当路線位置の計画は、現地政府が行った検討の経緯を示すこと。プレ FS の他、Delhi Mumbai Industrial Corridor Project のマスタープラン等の検討の経緯を示すこと。
4. 「Environmental and Social Consideration」の項目の中に「主要な施設へのアクセス」、「Involuntary Resettlement」について項目を加えること
5. 想定可能な代替ルートの中から詳細に比較検討すべき代替ルートを絞り込む過程について説明すること。
6. 全区間において用地取得の影響が最小化されていることを確認し、その結果を DFR に記載すること。Panchgaon - Bawal 間の影響最小化が確認できない場合は同区間においても代替ルートを検討すること。
7. オプション 1 の選定理由が定性的かつごく簡単であるので、より丁寧な説明を行うこと。

スコーピング・マトリックス

8. スコーピング・マトリックスにおける「汚染対策」ならびに「自然環境」の欄で、工事前/工事中ならびに供与後に D 評価となっている項目（大気汚染、水質汚濁、廃棄物、生物・生態系）に関しては、その評価を見直し、今後の調査結果および必要な対策を DFR に記載すること。
9. スコ - ピング・マトリックスにおける社会環境の欄で、供与後の評価が、生活・生計では A+、貧困層では D、また被害と便益の偏差では B-となっているが、これらの項目は相互に密接に関係していることから、今後の調査結果および必要な対策を DFR に記載すること。

環境配慮

10. 「補完調査方針」における「汚染対策」の「騒音・振動」において、振動に関する評価概要を記述すること。
11. 振動に関する影響評価において、設計速度に対して予測を行い、昼間と夜間を区別して影響を評価すること。また、将来、高速化が行われる可能性がある場合は、その想定される速度においても同様な影響評価を行い、必要に応じて対策を講じること。

社会配慮

12. 駅舎や車両基地等の必要施設用地の選定に当たっては、用地取得・住民移転などが最小化されるように実施機関等と協議を進め、必要な調査を行うこと。
13. インドでは農民の再就職が困難であることから、効果的な職業訓練を行う等、十分に配慮するよう先方に申し入れること。

ステークホルダー協議・情報公開

14. 既に複数の村で住民による反対意見が表明されていることから、JICA ガイドラインに則って社会的合意が得られるよう十分な調整をはかること。必要に応じて住民協議の回数・場所を増やすこと。

以 上